



霞ヶ浦のアユの生態 その1



1 恋瀬川、桜川でアユの産卵を確認！

内水試では1992年から霞ヶ浦・北浦で多くとれるようになったアユの調査をしています。昨年までの調査で霞ヶ浦流入河川の恋瀬川、桜川でアユの産着卵が確認されました。発見されたアユ卵は1mm程度の大きさで、石に付着するための膜があるのが特徴的です（図1）。恋瀬川においては本流の八郷町宇治会と支流川又川の同町須釜で、桜川においては新治村田土部の田土部堰下～桜橋の地点で発見されました。発見された卵の個数は1m² 当たり100～600個程度でした。これで1995年の北浦の巴川に続き霞ヶ浦の河川においてもアユの産着卵が初確認されたことになります。

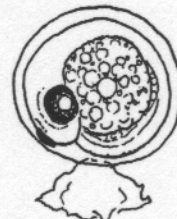


図1 アユ卵(1mm)

2 ふ化仔魚は霞ヶ浦へ

恋瀬川における流下仔魚調査によって、秋に卵からふ化したアユ仔魚が霞ヶ浦へ流下することを確認しました。採集されたふ化仔魚のサイズは全長6mm程度で（図2）、流下する時間は20時がピークでした（図3）。桜川においても昨年10月に河口域で行なった調査でふ化後間もない仔魚が多数採集され、アユが再生産していることが確認されました。

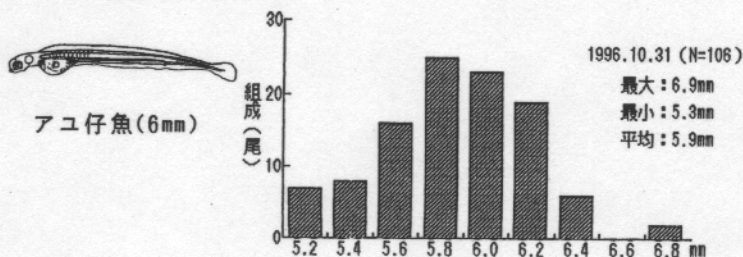


図2 恋瀬川におけるアユ流下仔魚の全長組成(1996年)

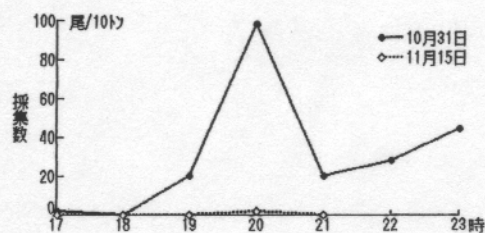


図3 恋瀬川におけるアユ流下仔魚採集数の経時変化(1996年)
(ろ水量10トン当りの数)

3 冬から春は霞ヶ浦で過ごす

秋から春にかけて霞ヶ浦の高浜入から湖心で調査した結果、霞ヶ浦に流下した仔魚は徐々に成長しながら湖の下流側に分布域を広げることが分りました（図4）。特に水温が低い冬から春にかけては霞ヶ浦の沖帯に多く分布しています。これは同時期に岸帯に多いシラウオの特徴と異なるため、住み分けられているようです。



図4 霞ヶ浦稚魚ネットによるアユ稚魚採捕数(1996～1997年)

4 夏までに流入河川にそ上

恋瀬川、桜川の調査で早い群は4月までに霞ヶ浦からそ上していることが確認され、5月以降はその数が増加しました。この時はまだ霞ヶ浦でもアユが多く漁獲されています（図5）。ところが7月以降は徐々に霞ヶ浦での漁獲量が減少し、8月以降はほとんどとれなくなります。このことから、アユは夏までに流入河川にそ上するものと考えられます。そして、秋にはその河川で産卵し霞ヶ浦水系内で一生を終えます。

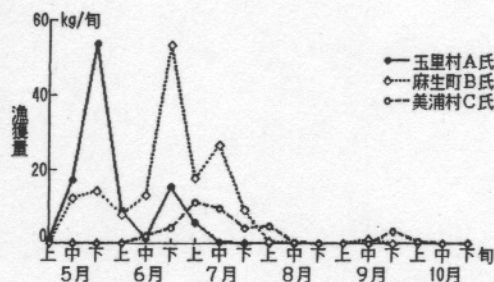


図5 霞ヶ浦の張網によるアユ旬別漁獲量(1997年)

「霞ヶ浦北浦水産事務所調査資料」